

令和2年度 学校関係者評価書(様式)

鈴鹿市立国府小学校		NO.	
評価項目	本年度の活動(具体的な手立て)と指標	学校関係者評価	今後の改善点
学力向上	<p>①習熟度別少人数指導を4・5・6年生算数で実施。県の「『わかる授業』 促進授業による研究の推進。</p> <p>②「めあて」「まとめ」の明確な提示。</p> <p>③授業力向上のため、定期的に授業参観を行う。</p> <p>④研究授業の実施。</p> <p>(成果と課題) ○4年生算数科において習熟度別少人数指導を行う。学年を3クラスに分けてよりきめ細やかな指導を行うことができた。 ○学年初めにノート研修を行い、「めあて」「まとめ」「ふりかえり」の意義について共通理解を行った。 ○空き時間などを利用した「ぐるぐるウィーク」(教員がお互いに授業を見合う週)を設定し、いろいろな学年の取り組みを参観し、授業改善に役立てることができた。 ○今年度より社会科の校内研修に取組んだ。資料や課題に対する自分の考えをもつことを重点項目にあげ、研修を進めることができた。</p>	<p>・学年が上がるにつれて個人差が出てくる教科なので、少人数指導で行うことができたのは良いこと。人員確保できた時には、他学年にも3クラス実施目標</p> <p>・高学年の算数少人数指導は来年度以降も続けていただきたい。小学校の算数は中学校にもつながるため楽しんでもらえたらと思う。苦手意識が減るとよい。</p> <p>・「めあて」「まとめ」と書くだけの児童もたくさんいるように見受けられる。「めあて」の意味を理解していないようにも思われる。先生の言葉「今日はここまでわかるようにしましょう」と毎日言うことも大事</p> <p>・本年度コロナ禍で授業時間減少、授業内容の制約等々の環境下でいろんな改善をして、支障を達成されたことに、先生方に感謝します。</p> <p>・いろんな先生の授業があると教わる方も気づきがあり、良い。先生方も忙しい中時間を作り他の授業を参観し、自身のスキルアップにつなげている。</p> <p>・「めあて」「まとめ」「振り返り」を授業で示すことで子どもたちが後でノートを見た時何を学んだかわかりやすい。</p> <p>○先生方が、いかに分かりやすく教えるか、そのための研究や、「ぐるぐるウィーク」での良い所を学び改善につなげる取組みは評価できる。</p> <p>○毎日の授業で、必ず「めあて」「まとめ」「ふりかえり」を1年生から意識づけることは、児童にとって非常に有意義であると感じる。</p> <p>○4年生における習熟度別の3クラスに分けての授業は、人数が少なく丁寧に教えることができるので、今後も続けてほしいと思う。</p> <p>●事情があつて、5年生の習熟度別少人数指導ができなかったことは理解できるが、そのことで習熟度により開きができているように感じる。人員的に厳しいことは分かるが、特にポイントの単元だけでも、少人数指導ができれば良かったのではないかなと思う。</p> <p>・自分の考えをもつ授業と読解力を。学習の楽しさを習慣づくとよい。</p>	<p>算数の習熟度別少人数指導については、来年度も引き続き3クラスに分けて実施を行いたい。子どもたちの学力に応じた分け方ができるため、よりきめ細かく指導が行えることによって学力の定着が図れると考える。</p> <p>また、高学年になり理解の個人差が大きくなってきている。今年度に関してはコロナ禍で授業時数が少なくなり、教師も授業を急いでこなさなければならなくなってしまったので、来年度はより丁寧な指導と適宜個別指導を行いたい。</p> <p>1時間の授業で「めあて」「まとめ」「ふりかえり」を書かせることで、子どもの振り返りだけでなく、その内容から子どもの理解度や苦手なところを把握しより指導力を向上していきたい。</p> <p>「ぐるぐるウィーク」は今後も教師のスキルアップの取組として継続していきたい。</p>
生徒指導	<p>(成果と課題) ○いじめアンケートの実施により、いじめの早期発見・指導につなげることができた。いじめアンケートに限らず、日々の生活指導を、管理職と担当が報告・相談・連絡を図りながら細かく行ってきた。 ○学期に数回、生活委員や教員が中心にあいさつの取り組みを行ってきた。取り組み期間中は、熱心に取り組む姿があった。 ●あいさつの取り組み期間が終わると、自分から進んであいさつをする児童が減ってしまう。 ○生活習慣アンケートを年1回実施(2学期)。結果は学校だよりで、成果と課題をまとめたものを公表した。また、健診結果は、学期に1回を目途に「わたしのからだ」を保護者に配布し報告した。</p>	<p>・いじめアンケートは今後も続けてほしい。「なぜいじめはよくないのか」を児童が理解できることを望む。また、嫌いな人や苦手な人がいても攻撃せず「そういう人もいる」「自分と合わないだけ」と思っているとわかると少し心が軽くなることも教えてほしい。</p> <p>・児童は「なぜあいさつ運動が必要か」理解しているのか。「あいさつの必要性」「あいさつの役割」が理解できればあいさつも増える。</p> <p>・今回のいじめアンケートの日、支援学級の児童と外国籍の児童の見守りをした。文の理解ができないようでは伝えやすい言葉で問いかけた。日頃、先生方の「たたかれた」とか小さな事にも向き合っているのでは何の心配もしていない。</p> <p>・普段の先生方と児童の関係といじめの有無は関連が大きくあると思うが、国府小は先生方と児童だけではなく、保護者や地域の方々ともより良い関係が築けているのでそのことがいじめをなくしていることは素晴らしい。</p> <p>・通年をあいさつの取組期間とするように学校でも家庭でも子どもたちに声掛けできるとよい。</p> <p>・学校全体・地域全体でこれからもあいさつ運動を続けてほしい。</p> <p>・いじめトラブルは残念なことにはならないので先生方の早期発見・指導がこれからも必要となってくる。</p> <p>・今年度はコロナで休校になり、生活のリズムが大きく変わったと思う。休校中も家庭訪問をしたり、宿題を用意したりして、常に学校は子どもたちの様子を気にかけてくれた。</p> <p>・思いやりのある子打たれ強い子を育てたい。</p> <p>・自発的にあいさつされると気持ちが良い。</p>	<p>・あいさつを促す取り組みは来年度も引き続き行っていくが、「あいさつの必要性」「あいさつの役割」などを学級で話し合い、学級全体で取り組みに対する姿勢を育て、自発的にあいさつができる子どもにしていく。また、単発的な取り組みで終わるのではなく、年間を通して意識して取り組めるように計画をしていく必要がある。</p> <p>・いじめに対しては、「なぜいじめはよくないのか」を学校全体で共通理解をもち、その時、その場にいたその人が指導にあたり、小さなことにも学校全体で向き合っていく体制を継続してもつ。早期発見・早期指導を心掛け、一人ひとりの子どもに寄り添っていく。</p>

<p>外国人児童生徒教育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・JSLバンドスケールを活用した日本語能力の把握 ・取り出しによる日本語・学習指導（名，週9コマ） <p>（成果と課題） ○JSLバンドスケールを活用した日本語能力の把握を行うことで日本語能力に応じた指導を行うことができた。 ○取り出しを行うことで、日本語を話すことが苦手な児童も話すことや書くことに自信をもって生活する姿があった。</p> <p>●年々、外国にルーツのある児童が増えてしており、よりきめ細かい支援を行うには時数と人員の確保が必要である。（JSLとは…外国籍児童の日本語力を話す・書く・聞くの三領域で判定し、指導に生かすツーク人権）</p>	<p>○道徳や学活で、コロナ関連の「いじめ・偏見・中傷など」について考える時間が持たされたことは、改めて人権について学ぶ良い機会となったと思う。これからも続けていただきたい。 ○自己肯定感を高める取組は評価できるが、小学生なので「人をほめる」ことが慣れ性的になって、その効果が薄れがちになってしまうことのないよう取組んでいただきたい。 ・10月からボランティアが再開され支援員の子ども1年のクラスに行った時「これ見て」と紙を見せる子がいた。文章がかいてあり「これでいいよ。上手にかけたね」というと嬉しそうだった。周りの親切な子たちが先走って教えてくれると困った顔をしていた。そんなことが何回かあったがこの頃何も言ってこない。JSLのおかげ。誰でも自分の言葉で自分の思いを伝えたいはず。本当に良かった。 ・外国籍の児童が増加しているが、児童の中には「○○人だからな」という児童もいる。国や性別ではなく個人としてその人を見る事の大切さを伝えてほしい。もし、逆の立場ならどう思うか想像する事はとても大事。個人的にスペイン語に興味がある。スペイン語圏の児童と接するのにDELE認定が必要なら取得を考えている。 ・日本語の苦手な児童には取り出し授業がとても大切。日本語力がついたというのはうれしい結果。 ・ほめほめタイム（みんなのよいところに目を向けて発表する時間）ですが児童同士のほめほめは難しい。つまり相手をよく見ていないと気づけないので。誰かの良い部分を探すのは簡単ではないが、続けてほしい。他人をほめる人、感謝の言葉を述べる人の周りには、ポジティブな想念の人が集まるそうだ。学校全体がポジティブで包まれるといい。 ・ほめほめタイムを児童とその保護者で1週間位しゅくだいで取組むのも面白い。 ・国府小は外国籍の児童、支援が必要な児童、他の地域出身の児童など、いろんな人がいるので、相手への理解を学ぶのにとっても良い環境。今後も「相手への理解」を深められるような児童が育つことを期待する。 ・支援級の先生方の日々の努力には頭が下がる。 ・自己肯定感は難しい。改めて問われて肯定するのは恥ずかしいと×をしている子もいるのでは。やはり小さい頃から親の愛情を受け、できたらほめられるという生活の中から育つもの。そうして育てられたことがほとんどなのだと思うが、まだまだ満足していないのか。入学説明会の場等で親にも話して協力を求めることも必要なのでは。 ・自己肯定感の取組は続けてほしい。 ・ほめほめタイムの設定はとても良い取組。数年前帰りの会で友達がよいことをしていたというのを発表していたのを見た。あれも「ほめほめタイム」だったのだと改めて思った。 ・ざりざりの職員の中でやりくりしてまわって</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・外国籍児童が増加していることを受けて、教員はもちろん、国や性別ではなく個人としてみていく感覚を養いたい。国際理解の授業や国際教室との連携を継続して進めたい。また、その取組みを教員同士で還流をしていきたい。 ・児童全員が安心して発言したり、認められたりしながら共に学べる学習空間を作っていく。誰もが参加しやすい授業になるようICT機器の活用や、視覚的支援などの手立てを継続して行っていくたい。 ・コロナウイルス感染症の問題が来年度も想定される。コロナ差別を生まないように事前に指導したり、児童にその都度立ち止まらせたりするなど、学校全体でアンテナを高くして啓発を行っていきたい。 ・自己肯定感を高める活動は今後も意識し継続して行っていくたい。家庭を巻き込んでの取組みをすることは、来年度検討した上で適切な方法で取組めたら更に効果があると考える。 ・来年度も特別支援コーディネーターを中心として組織的に支援の必要な児童の理解や適切な支援を行っていきたい。
<p>人権教育 人権・特別支援教育</p>	<p>＜特別支援＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりに応じた支援を行うため支援会議を開催する。 ・児童の情報共有を行う（毎職員会議、打ち合わせ等） ・個別の支援計画の整備を進める ・特別支援教育の視点に立った教育環境づくりを行う。 <p>（成果と課題） ○本校児童の課題であった自己肯定感を高める取組みを行った。「ほめほめタイム」の設定。 ○人権教育授業研究や学級づくり交流会を行い、教員の人権感覚向上や人権教育推進計画に沿った人権教育の共有を行った。 ○支援会議を適宜行い、保護者と連携しながら児童に合わせた支援ができるようにした。 ○児童の情報共有を行い、教員全員で適切な支援・声かけができるよう努めた。</p>	<p>○道徳や学活で、コロナ関連の「いじめ・偏見・中傷など」について考える時間が持たされたことは、改めて人権について学ぶ良い機会となったと思う。これからも続けていただきたい。 ○自己肯定感を高める取組は評価できるが、小学生なので「人をほめる」ことが慣れ性的になって、その効果が薄れがちになってしまうことのないよう取組んでいただきたい。 ・10月からボランティアが再開され支援員の子ども1年のクラスに行った時「これ見て」と紙を見せる子がいた。文章がかいてあり「これでいいよ。上手にかけたね」というと嬉しそうだった。周りの親切な子たちが先走って教えてくれると困った顔をしていた。そんなことが何回かあったがこの頃何も言ってこない。JSLのおかげ。誰でも自分の言葉で自分の思いを伝えたいはず。本当に良かった。 ・外国籍の児童が増加しているが、児童の中には「○○人だからな」という児童もいる。国や性別ではなく個人としてその人を見る事の大切さを伝えてほしい。もし、逆の立場ならどう思うか想像する事はとても大事。個人的にスペイン語に興味がある。スペイン語圏の児童と接するのにDELE認定が必要なら取得を考えている。 ・日本語の苦手な児童には取り出し授業がとても大切。日本語力がついたというのはうれしい結果。 ・ほめほめタイム（みんなのよいところに目を向けて発表する時間）ですが児童同士のほめほめは難しい。つまり相手をよく見ていないと気づけないので。誰かの良い部分を探すのは簡単ではないが、続けてほしい。他人をほめる人、感謝の言葉を述べる人の周りには、ポジティブな想念の人が集まるそうだ。学校全体がポジティブで包まれるといい。 ・ほめほめタイムを児童とその保護者で1週間位しゅくだいで取組むのも面白い。 ・国府小は外国籍の児童、支援が必要な児童、他の地域出身の児童など、いろんな人がいるので、相手への理解を学ぶのにとっても良い環境。今後も「相手への理解」を深められるような児童が育つことを期待する。 ・支援級の先生方の日々の努力には頭が下がる。 ・自己肯定感は難しい。改めて問われて肯定するのは恥ずかしいと×をしている子もいるのでは。やはり小さい頃から親の愛情を受け、できたらほめられるという生活の中から育つもの。そうして育てられたことがほとんどなのだと思うが、まだまだ満足していないのか。入学説明会の場等で親にも話して協力を求めることも必要なのでは。 ・自己肯定感の取組は続けてほしい。 ・ほめほめタイムの設定はとても良い取組。数年前帰りの会で友達がよいことをしていたというのを発表していたのを見た。あれも「ほめほめタイム」だったのだと改めて思った。 ・ざりざりの職員の中でやりくりしてまわって</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・外国籍児童が増加していることを受けて、教員はもちろん、国や性別ではなく個人としてみていく感覚を養いたい。国際理解の授業や国際教室との連携を継続して進めたい。また、その取組みを教員同士で還流をしていきたい。 ・児童全員が安心して発言したり、認められたりしながら共に学べる学習空間を作っていく。誰もが参加しやすい授業になるようICT機器の活用や、視覚的支援などの手立てを継続して行っていくたい。 ・コロナウイルス感染症の問題が来年度も想定される。コロナ差別を生まないように事前に指導したり、児童にその都度立ち止まらせたりするなど、学校全体でアンテナを高くして啓発を行っていきたい。 ・自己肯定感を高める活動は今後も意識し継続して行っていくたい。家庭を巻き込んでの取組みをすることは、来年度検討した上で適切な方法で取組めたら更に効果があると考える。 ・来年度も特別支援コーディネーターを中心として組織的に支援の必要な児童の理解や適切な支援を行っていきたい。

<p>教職員の業務改善・育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・職員会議、研修会等を活用し、各種研修を行う（体罰・危機管理・いじめ・コンプライアンス・セクハラ等） ・総勤務時間の縮減（定時退校日を月2回設定） ・退校できる職員の割合70% ・60分以内に終了する会議の割合30% ・時間外労働時間月平均2.7時間以下 ・休暇取得数を一人当たり13日以上 ・SSS（スクールサポートスタッフ）、ICTの活用により校務処理負担の軽減 ・校内研修の充実、提案授業、教員同士の授業参観、初任者研修への全員参加を通して新学習指導要領に沿った授業力向上に取り組む。 <p>(成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各種研修は職員会議に限らず打ち合わせ等を活用し、常に意識できる環境をもった。 ○定時退校日月2回の実施及び退校できる職員の割合77.6%となった ○60分以内に終了する会議の割合35.4%・時間外労働時間月平均2.25時間となった。 ●しかし、休暇取得となると一人当たり13日以上は難しかった。 ○スクールサポートスタッフの活用は大変有効であった。上記の成果もこれによるものが大きい。 ○新学習指導要領に沿った授業改善に前向きに取り組んだ。対話的な学びについて試行錯誤 	<ul style="list-style-type: none"> ・4月から通常授業ができず、今までになかった仕事が増えたと思う。その状況の中で業務改善に取り組むには難しい1年であったのではない。 ・SSSは先生の負担が少しでも減ったのかと安心した。 ・気兼ねなく休暇がとれる雰囲気づくりが大切。先生方が熱心なあまりのこと ・土日等学校の前を通る時、職員室の電気がついてないと、休んでもらっているのだと安心してしたりするが、持ち帰りの仕事が多くては意味がない。その辺のところは校長先生教頭先生がしっかり見守ったほしい。 ・定時退校日だが、PTAの執行委員会・運営委員会に校長先生教頭先生の退校が遅くなってしまい、申し訳ない。次年度より、PTAの退校時間の設定をさせていただきたい。20:30には退校完了をめざす。 ・常に意識する環境が必要。継続を願う。 ・60分の時間を気にして討議が甘くならないように。 ・コロナ禍の時期、職員の仕事も増えている。SSSを大いに利用。 	<ul style="list-style-type: none"> ・時間外労働時間月平均25時間以下をめざす。 ・定時退校日を月2回設定し、退校できる職員の割合を80%・60分以内に終了する会議の割合40% ・休暇取得を一人当たり13日以上 ・日頃からの職員同士の授業参観実施 ・ミニ研修会の設定
<p>地域との連携</p>	<p>(成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○コロナ感染症拡大予防のため実施が10月からとなったが、各学年学習ボランティアの実施ができた。今年度から参加の方もあり、また、環境ボランティアにもたくさんの方に参加いただき環境整備にも大きく尽力いただいた。 ○安心安全ボランティアの方に児童が感謝の手紙を書く取組を行い、直接お礼を伝える機会をもった。 ○コロナ禍において、例年通りに実施できないことも多く、行事の方法等、毎回協議していただき、連携して取組めた。 ●ホームページでの情報提供は職員の働き方との兼ね合いが難しい。保護者からの要望が大きく、改善していく課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○毎年実施している学校運営協議会委員と児童会役員との意見交換会は、双方にプラスとなる取組なので、今後も工夫して取組んでいただきたい。 ○国府地区まちづくり協議会と連携し、あいさつ運動のキャッチフレーズづくりに全校で取組み、素晴らしい作品が生まれた。地域に自分の作品が、見える形で残ることは児童にとって良い記念となり、励みにもなると思う。 ●学校支援ボランティアの充実が課題である。今後の継続と発展のためには、地域はもとより保護者への呼びかけも重要となるので、国府地区まちづくり協議会やPTAとの連携強化を図る必要がある。今年度はコロナの影響で授業参観が少なく学校での様子を見るのが少なかったという声を行く。そのためホームページに児童の様子を載せていただくと様子が知れてよいと思う。文章は少なくとも写真が掲載されていれば様子を知ることができる。 ・PTA広報誌ですが、児童がいる家庭には配付するが児童のいない家庭には配付がない。案として学校だよりのように各自治会の回覧用があるとPTAの様子を地域の人に知ってもらうことができるのではと思う。 ・ボランティアの皆様には感謝している。 ・コロナ禍の中、ボランティア活動も10月までできず残念なことだった。労務員さんが夏の暑い中でも草抜きなどたくさんして感謝。ボランティアのできることがあったら言ってほしい。 ・ホームページの発信の県は昨年話していた。得意な保護者等の協力も考えてはいかか。 ・今年は中止や延期、実施を決めるのに苦慮したが、協議の上決断できた。 ・コロナで学習ボランティアが10月から参加となり子どもたちへの支援に限られたのは残念。 ・環境整備で普段できない所をきれいにできた。 ・以前は安心安全ボランティアへ子どもたちからお礼を伝える場がなかったのは残念。やはり「ありがとう」の気持ちを伝えるのは大切。 ・今年度は読み聞かせの時間が無くなってしまったので子どもたちも残念だった。 ・コロナの影響で1学期の開始が遅れ、感染への不安や勉強の遅れなど、子どもたちへの影響は決して少なくなかったと聞いている。それを取り戻すための先生方の努力は計り知れないものがあったと思う。 ・今後の見通しが不安定であるからこそ、来年度に備えるために、この評価書に別枠でコロナ対応の項目を設け、本年度の検証をしてはどうか。 ・学力の底上げには、学習ボランティアは不可欠。継続の充実を望む。各種ボランティアへの感謝の取組は受ける児童にとっても大切。良い取組。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国府地区の歴史、文化の学習を取り入れていってはどうか ・感染症予防をしっかりと行っただうえで、学習ボランティアの充実を図り、募集をしていく。 ・学校運営協議会を、学校運営の柱ととらえ、協議事項を熟議していく。 ・コロナ禍の状況を見て、各ボランティアの交流会をもつ。 ・ホームページで写真を中心に子どもの活動の様子を発信していく。 ・読み聞かせのボランティアはICTを活用するなど、方法を考え実施できか、ボランティアの方と相談する。 ・安心安全ボランティアの皆様へ感謝の手紙を児童が渡す活動を、今後も続けていく。 ・大掃除、奉仕作業時等にボランティアさんに協力をお願いし、児童と一緒に清掃活動をしていただく。

